九州地方

名前

問1　九州地方南部では畜産が盛んであり、全国の産出額上位10府県のうち多くを九州の県が占めています。このように、南九州で大規模な水田稲作ではなく、畜産や畑作が発達した主な地理的要因として正しいものはどれですか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

1. 冬の寒さが非常に厳しく、夏の間しか作物を育てられないため、通年で行える畜産を選択したため。
2. 平地がほとんど存在せず、傾斜地を利用した放牧しか農業の手段がなかったため。
3. 水はけが良すぎるシラス台地が広がっており、水の確保が難しく水田開発に制約があったため。
4. 年間を通じて降水量が極めて少なく、乾燥した気候が家畜の飼育に最適であったため。

問2　九州地方南部に位置する鹿児島県では、第1次産業の就業人口割合が約9.5%と全国平均に比べて高く、農業が盛んです。この県の土地利用の特徴として、耕地面積に占める畑の割合が約68%と非常に高いことが挙げられますが、このように畑作や畜産が中心となった主な理由として正しいものはどれですか。（2018年 東京都公立入試 類似）

1. 平野部がほとんど存在せず、急峻な傾斜地を利用した果樹園の経営が中心となったから。
2. シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。
3. 冬の積雪量が多く、1年の半分以上を農作業に充てることができない気候特性があるから。
4. 夏の降水量が極端に少なく、大規模なため池を作ることが技術的に困難であったから。

問3　九州地方の北東部に位置し、別府や由布院といった日本を代表する温泉地がある大分県では、火山の熱エネルギーを直接利用した発電が行われています。この発電方法を何といいますか。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 太陽光発電
2. 風力発電
3. 地熱発電
4. 水力発電

問4　宮崎県では、農業産出額の約3分の2を畜産が占めています。このように宮崎県で肉用牛、豚、鶏などの飼育が盛んになった背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 茨城県公立入試 類似）

1. 冬でも温暖な気候を利用して、家畜の飼料となる穀物を二毛作で大量に生産できる環境があったため。
2. シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。
3. 大消費地である東京から遠いため、野菜よりも保存や加工がしやすい畜産物の生産に力を入れた。
4. 平野部が少なく耕地面積が限られているため、狭い土地でも効率よく収益が上がる畜産業に特化した。

問5　沖縄県の地域調査において、本土復帰から現代までの経済統計について考察した次の記述のうち、正しいものはどれですか。（2018年 沖縄県公立入試 類似）

1. 基地関連収入の割合が大幅に低下したのは、県民総所得の総額が1972年時点よりも減少したためであり、沖縄経済の規模は縮小を続けている。
2. 復帰直後の沖縄県では基地関連収入が県民総所得の5.7%を占めるに過ぎなかったが、現在は基地の役割が増大し、その割合は30.4%に達している。
3. 県民総所得の総額は、1972年の約5,000億円から2014年の約4兆3,000億円へと増加しているが、基地関連収入の割合は依然として30%を超えている。
4. 1972年と2014年を比較すると、県民総所得に占める基地関連収入の割合は約4分の1以下に低下しており、基地に依存しない経済への転換が進んでいる。

問6　九州地方の北西に位置し、朝鮮半島との最短距離にあることから、歴史的に大陸との外交や貿易の中継地となってきた島があります。鎌倉時代に元軍が日本へ侵攻した際にも、その地理的条件から最初の攻撃対象となったこの島の名称は何ですか。（2018年 三重県公立入試 類似）

1. 対馬
2. 五島列島
3. 佐渡
4. 隠岐

問7　鹿児島県などの南九州に広がるシラス台地では、一般的な地域の井戸が約6メートルから10メートル程度の深さであるのに対し、約64メートルもの深さがある「深井戸」が掘られてきました。このように極端に深い井戸が必要とされた理由として最も適切な説明はどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）

1. 関東ローム層と呼ばれる粘土質の層が厚く、地表付近の水の浸透を妨げているため
2. 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保する必要があるため
3. 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため
4. 花こう岩の地層が地表近くまで迫っており、岩盤の隙間にあるわずかな水を確保するため

問8　日本の諸地域に見られる伝統的な住居の工夫について述べた次の文のうち、南西諸島の特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. 敷地の周囲を石垣で囲い、屋根には赤瓦を用いてその隙間を漆喰で固めている。
2. 屋根の傾斜を急にし、厚い茅（かや）で葺くことで、雪が滑り落ちやすくしている。
3. 住居の北側や西側に「防風林（屋敷林）」を植えることで、冬の厳しい寒風を防いでいる。
4. 地面から床を高くした高床式の構造にすることで、地面からの湿気を通さないようにしている。

問9　北九州工業地域の工業出荷額を産業別に見た際、機械工業や金属工業とともに主要な割合を占める産業があります。この産業の工場が、福岡県北九州周辺の沿岸部に集中して分布している主な理由として、最も適切なものはどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 内陸部と比較して地価が高く、企業としてのブランドイメージが高まるため
2. 原料となる農産物を、近隣の平野部から短時間で集荷できるため
3. 製品の鮮度を保つ必要があり、消費地である都市部に隣接しているため
4. 海外から輸入する原料の搬入や、完成した製品の船舶輸送に便利なため

問10　福岡県の工業出荷額に占める産業別割合を示した統計において、機械工業に次いで大きな割合を占め、北九州工業地域の沿岸部に工場が集中している産業の名称を答えなさい。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 化学工業
2. 金属工業
3. 食料品工業
4. せんい工業

問11　鹿児島県の桜島周辺における降灰被害について、冬の2月には降灰が主に火口の南東方向（海側）へ広がるのに対し、夏の8月には火口の北西方向（鹿児島市街地側）へと広がることが統計的に示されています。このように、時期によって降灰の範囲が変化する要因として最も適切な説明はどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 日本付近の上空を流れる偏西風が、季節によって完全に消滅するため
2. 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため
3. 周辺を流れる日本海流（黒潮）が、季節によって流路を大きく変えるため
4. 夏は気温が高いため、噴煙が上昇気流に乗って拡散されなくなるため

問12　九州地方の農業について述べた文のうち、筑紫平野で見られる農業の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 京都府公立入試 類似）

1. 広大な平野部の水田を活用し、夏には米を、冬には麦などを栽培する二毛作が行われている。
2. 阿蘇山周辺の広大な草原や斜面を利用して、肉用牛の放牧や酪農が行われている。
3. シラス台地特有の水はけの良さを活かして、サツマイモや茶の栽培、畜産が盛んに行われている。
4. 温暖な気候を利用し、宮崎平野を中心にピーマンやきゅうりの促成栽培が行われている。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 水はけが良すぎるシラス台地が広がっており、水の確保が難しく水田開発に制約があったため。	南九州の広範囲を覆うシラス台地は、火山由来の堆積物でできており、非常に水はけが良いという特性を持っています。このため、大量の水を蓄える必要がある水田稲作には適していませんでした。その代わり、乾燥に強い作物を作る畑作や、その飼料を活用できる肉用牛・豚などの飼育が地域の主要な産業として定着しました。
問2	答え 2 シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。	鹿児島県を含む九州南部には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、かつては大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、水が少なくても育つサツマイモなどの畑作や、広大な土地を利用した肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）などの畜産が発展しました。
問3	答え 3 地熱発電	大分県は火山活動が盛んであり、地下のマグマの熱を利用して高温の水蒸気を取り出し、タービンを回す発電方法が普及しています。これは再生可能エネルギーの一つであり、温泉地としても知られる別府などの地域特性を活かしたものです。水力発電はダムなどの水の落差を利用するもので、火山の熱を利用するものではありません。
問4	答え 2 シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。	宮崎県を含む南九州には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水はけが良すぎて稲作には不向きであったため、古くから畑作や、広大な土地を必要とする畜産業が発展しました。現在では、宮崎県は肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）のいずれも全国有数の産出額を誇る「畜産王国」となっています。
問5	答え 4 1972年と2014年を比較すると、県民総所得に占める基地関連収入の割合は約4分の1以下に低下しており、基地に依存しない経済への転換が進んでいる。	本土復帰直後の沖縄県では、県民総所得の約3割（30.4%）を基地関連収入が占めており、基地が経済に与える影響が極めて大きい状態でした。しかし、その後の経済発展によって県民総所得の総額が約8倍以上に増加した結果、基地関連収入が占める割合は5.7%まで低下しました。このことは、沖縄経済の構造が基地依存から観光やサービス業を中心とした自立的な方向へ変化してきたことを示しています。
問6	答え 1 対馬	九州、中国地方、四国の一部を含む周辺海域の中で、朝鮮半島に最も近い位置にあるこの島は、軍事・交通の拠点でした。元寇の際には、元軍が博多湾へと進むルートの途中でこの島や壱岐を制圧し、九州本土への足掛かりにしようとしました。
問7	答え 3 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため	南九州に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物（シラス）で構成されています。この層は非常に厚く、かつ粒子が粗いため水はけが良すぎるという特徴があります。そのため、雨水はすぐに地下へ浸透してしまい、地表付近で水を得ることが困難です。生活用水を確保するためには、この厚いシラス層を貫き、地下水が蓄えられている「帯水層」に到達するまで深く掘り進める必要がありました。
問8	答え 1 敷地の周囲を石垣で囲い、屋根には赤瓦を用いてその隙間を漆喰で固めている。	南西諸島の伝統的な民家は、サンゴ礁を利用した石垣で囲まれていることが多く、これは台風などの強風から家を守る役割を果たしています。また、屋根には風に強いとされる赤瓦が使われ、さらに瓦が吹き飛ばされないよう漆喰で継ぎ目を固めているのが外観上の大きな特徴です。急勾配の屋根は白川郷などの合掌造り、防風林は関東平野や平居などで見られる工夫です。
問9	答え 4 海外から輸入する原料の搬入や、完成した製品の船舶輸送に便利なため	北九州工業地域の化学工業は、石油や天然ガスなどの原料を海外から大型船で輸入し、大規模な設備で加工した製品を国内外へ輸送する形態をとっています。そのため、物流コストを抑えることができる港湾に近い沿岸部が立地として極めて有利になります。かつて官営八幡製鉄所を中心に金属工業が発展した際も、同様の理由で沿岸部が選ばれ、現在の化学工業の集積にもつながっています。
問10	答え 1 化学工業	北九州工業地域は、鉄鋼業（金属工業）から発展した歴史がありますが、現在は機械工業や化学工業が工業出荷額の中で重要な役割を担っています。特に化学工業は、広大な敷地と港湾施設を必要とするため、地図上の工場分布を確認すると、内陸部よりも沿岸部に記号が集中していることがわかります。これは原料の輸入と製品の輸出を効率化するための典型的な臨海型工業の特徴です。
問11	答え 2 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため	日本付近では、季節によって吹く方向が変わる「季節風」の影響を強く受けます。一般的に、冬は北西から、夏は南東からの風が吹くため、火口から見て北西方向に位置する鹿児島市街地では、特に夏場に降灰の影響を受けやすくなるという地理的な特徴があります。一方、冬は北西からの風によって火山灰が南東側の海へと流されるため、市街地への影響は夏に比べて限定的になります。
問12	答え 1 広大な平野部の水田を活用し、夏には米を、冬には麦などを栽培する二毛作が行われている。	筑紫平野は福岡県から佐賀県にかけて広がる九州最大の平野であり、古くから稲作と麦作を組み合わせた二毛作が行われてきました。他の選択肢にある「シラス台地」は南九州の鹿児島県に見られる特徴であり、「促成栽培」は宮崎平野の高知平野に見られる特徴です。地域ごとの地形や気候に適した農業形態を区別することが重要です。